久保先生との思い出

亜細亜大学経営学部 准教授　　鈴　木　智　大

久保俊郎先生は，1986 年春に赴任されて以来，途中，米国イリノイ大学，ミシガン大学での客員研究員を経ながらも，一貫して，亜細亜大学経営学部の教員を務められてきました。そして，35 年目の節目に当たる今年度に教員生活に一区切りをつけます。大恩ある久保先生の新たな門出をお祝いして，謝辞を述べさせていただきます。

経営領域に所属する久保先生と会計領域に所属する私は，一見それほど関係性があるように思えないかもしれませんが，不思議と縁があり，公私にわたり非常に仲良くさせていただいております。そこで，久保先生と私の不思議な縁についていくつか述べさせていただきながら，久保先生のお人柄をお伝えしたいと思います（なんか結婚式のあいさつみたいになってしまいました・・・）。もしかすると，みなさんの知らない久保先生を発見できるかもしれません。

1 つ目の縁は，研究室です。2018 年に現在の 1 号館に研究棟が移るまで，久保先生と私は総合研究館の 9 階に研究室があり，しかもお向かいさんでした。お互いにカリキュラムに関する委員を担当していたため，マーケティング領域の西原彰宏先生も交えながら，すり合わせや調整をさせていただくために，よくお邪魔させていただきました。久保先生は若手 2 人の（うるさい）意見にもよく耳を貸してくださり，実現に向けて経営領域内の調整を買って出てくださりました（おそらく，若手 2 人が勢いで進めるとまずいと判断されたものと思われます）。

ちなみに，研究室は書籍や書類が非常に多いわりに整理・整頓されており，執務スペースは確保されていました。といっても，久保先生は数式を立てて解くという経済学者らしいスタイルで研究を進めており，紙とペンがあれば作業ができるようです。そのためか，おそらく毎朝かなり早い時間に研究室にいらっしゃっていたと思われますが，向かいの私でさえも在室されているかどうかわからないぐらい静かな研究室でした（まあ，西原先生の音楽でかき消されていたのかもしれませんが・・・）。

そんな久保研究室がにぎやかになる日が週に 1 日ありました。ゼミの日です。普段の静寂さとは打って変わり，久保先生の笑い声が響き渡ります。会話の内容まではわかりませんが，ゼミ生たちが久保先生をいじっている様子が目に浮かびます。たまに，廊下で久保ゼミの学生と会話をすると，久保先生が本当に慕われていることがよくわかります。

2 つ目の縁は帰る方向です。一時期，私が日野市に住んでいたことがあり，久保先生と帰り道が同じでした。教授会やカリキュラム委員会などの会議日はもちろん，普段の日もよくご一緒させていただきました（私が帰る時間に久保先生の研究室をノックしてお誘いしていました）。一橋大学に移籍された河内山拓磨先生と 3 人で，たまに西原先生も加わりながら，大学から東小金

井駅まで歩きながら，様々なトピックを議論させていただきました。その中の1つのテーマが「人間の合理性」でした。教員から見るとやや不真面目な学生に対して，久保先生は「彼ら・彼女らの行動は（自分の効用最大化を図るという意味で）合理的である」と論じられていました。教員目線から非合理的に映る学生の行動も，学生目線から捉えれば合理的な行動であるということを思考した結果だと思われます。新古典派経済学などで想定されるホモエコノミクス的な合理性ではなく，限定合理的な人間像の中での合理性と私は解釈していますが，久保先生は行動経済学はあまり好きではない様子でした（モデル化が難しいから？）。一方で，脳科学の知見を活用した研究に興味を持たれているようでした。いつも時間切れで終わることが多い議論でしたが，またお時間があるときにゆっくりとお話しさせていただこうと思っております。

3つ目の縁は日本経営財務研究学会です。財務会計を専門とする私ですが，大学時代の恩師の一人である花枝英樹先生（前会長）から誘われて，入会するかどうかを迷っていました。このことを久保先生にお話ししたところ，久保先生は花枝先生と非常に親しい間柄にあることがわかりました。私は何かの縁だなと思い，久保先生に推薦者になっていただき，同学会に入会させていただくことになりました。

同学会では，九州大学で行われた第39回全国大会にて「外部資金調達に摩擦を伴う状況での財務動学モデル」というタイトルで久保先生が発表されているのをお聞きすることができました（討論者は花枝先生）。浅学菲才な私には，その内容を正確に理解することはできませんでしたが，一心不乱に発表・討論する姿が記憶に残っております。なお地方での学会の醍醐味の1つはその地域のおいしいものを食べることですが，久保先生は発表が終わられると，すぐご帰宅されました。真面目な研究者もいるもんだなあと感心しながら，私は博多のおいしいものを頂きました。ちなみに，前夜に行われた学会の懇親会には久保先生も参加されており，研究仲間と談笑されていたので，合理的に判断して帰宅を選択したものと思われました。

こうした縁が重なり，久保先生と私との距離は時間を経るとともに近づいていきますが，ここまでの縁はある意味で“公”の部分です。冒頭に公私ともにと書いたように，“私”の部分についても最後に少しだけ紹介させていただきます。それは毎春，さくらが少し咲き始めるころに行われる“春の散策”と我々が読んでいるイベントです。きっかけは，ある年の会計領域での忘年会で，私が日本酒を飲んでいると，夏目重美先生が「奥多摩に澤乃井の名で知られる小澤酒造があるけど，今度行ってみないか」と誘ってくれました。後日，いつものように久保先生と家路に向かい歩いているときに，お誘いしたところ，快諾していただきました。

当初は，日本酒をめぐる社会見学からスタートした春の散策ですが，その後，二瓶喜博先生，大江宏先生，西原先生もメンバーに加わり，川越，浅草など，日本の歴史的名所を訪れながら，老舗の料理を味わう会となりました。奥多摩のそばと川ガニ，川越のウナギ，トロ発祥のすし屋，行き過ぎた霜降りに警鐘を鳴らすすき焼き屋など，私の知らない名店にたくさん連れて行っていただきました。

普段お酒をあまり口にしない久保先生ですが，このときばかりはほほを少し赤らめながら，大

声で笑う姿も見られます。散策では，夏目先生と俳句を詠んでおり文化人の一面も覗けました。日本銀行の資料館では貨幣論について熱く語っていただきました。残念ながら 2020 年の春は新型コロナの影響で中止となりましたが，人生の先輩たちから多くのことを学べる貴重な機会ですので，会の再開を願ってやみません。なお久保先生は否定されていますが，かなりの愛妻家だと思われます。実際，春の散策で訪れた場所に後日奥様と出かけられているようです（久保先生は，自分だけ美味しいものを食べると怒られるからと照れ隠しされていましたが・・・）。

会のメンバーに送る言葉の件をお伝えしたところ，皆さまからも一言ずつ，お言葉をいただきましたので，ご紹介させていただきます。

（夏目先生）

久保先生を俳句会にお誘いした折，俳句と言えばと「高塔に鳩多き日や卒業す　草田男」の名句をお示しになられました。常々研究室で難しい数式と格闘しておられる久保先生から，温もりと奥行の深さを垣間見せられた瞬間でした。その後も時折「こんなの出来たよ」と自詠句を寄せられ，吟行にもご同行いただきました。MESE を初めとするジュニア・アチーブメントの各種プログラム導入の際には，いつも理念に同調して協力してくださいました。CAPS を最初に実施したときのこと，対象とする 4・5 年生の児童が集まらず苦慮していました。久保先生にお声かけすると，お嬢様をご同伴されてご参加くださいました。久保先生のご退職を寿ぐとともにこれまでのご厚誼への感謝の言葉といたします。

（二瓶先生）

久保先生とはいろいろな面で馬が合うと勝手に思っています。私が学部長に選出されたとき，教務主任を買って出てくれました。最初の仕事は新入生オリエンテーションで，二人で冷たい風が吹き付ける鬼怒川の橋の上で，学部教育，学部運営をどうやっていこうかと話し合ったのを今でも覚えています。

教育観，学問への志向，重なることが多かったように思います。だから，学部教育に対する考え方や制度変更については，事前の調整の中で，ぶつかることはありませんでした。むしろ，私の研究室で教授会前日の打ち合わせをやっているとき，意気投合して二人で盛り上がり，その方向で実現するような思い込みで意気込んで教授会に臨み，なかなかそのようには進まないという壁を感じることが多かったです。しかし，二人ともめげませんでした。こうして，温泉，宿泊型の新入生オリエンテーションを夏目先生のお力を借りて，「経営学部で学ぶことを体感する」という趣旨で，キャンパスでビジネスゲームをやるという「初年次教育」スタート時の重要行事として確立することができました。

毎年持ち回りで開催されている全国経営学部長会議が北海学園大学で開かれたとき，久保先生とご一緒させていただきました。札幌の狸小路のはずれにあるミニシアターで，観たいと思っていたフリーダ・カーロの伝記映画をやっているのを見つけたので，迷った末に付き合っていただきました。先生の関心領域が広かったおかげで，専門の違いを気にすることなくこんなわがまま

もできました。

退職してからは毎春に若手の先生方がお膳立てしてくれて江戸の雰囲気を楽しむ食事会でお会いするだけになってしまいましたが，散策の時はいつも参加者の中からいろいろな話がでてきて，現役から遠くなった私にはとてもいい刺激になっています。昨年，そんな話の中で，久保先生は「市場」についての関心を示され，マーケティング分野の市場に関する本について触れられました。私も，「贈与論」とか「市場とアジール」「地域通貨」や「貨幣」など市場の存立をめぐる問題への関心は持ち続けているので，ゆっくり市場とか交換の問題などいろいろお話をしたいなぁと思いました。その久保先生がいよいよ退職です。これからもよろしければこんなお話を交わしたいし，共同研究なぞができれば望外の幸せです。

（大江先生）

久保先生，永らくお疲れ様でした。

久保先生の関心領域の広さ・深さと「行動力」を垣間見た2つの旅は印象に残っています。1つは，モンゴル・ウランバートルからロシア・バイカル湖の陸路往復の旅（2016年夏）。久保先生は，モンゴル高原を舞台とした騎馬民族の歴史や草原と牧畜文化への深い関心を，ウオッカを楽しく飲みながら，話されていましたね。また，水温18度，高い波と風のあるバイカル湖に率先飛び込んだ「行動力」に脱帽しました。

もう1つは，久保先生が主催されたウズベキスタンへの旅（2019年夏）。旅で出会う川に強い関心を示していましたね。文明解読のキーワードの1つとして。天山山脈に発するシルダリアやパミール高原を源流とするアムダリアが交易や農耕のみならず，城塞都市の盛衰に深く影響していたことを見抜いておられました。

気力・体力が十分で好奇心旺盛，さらに裁量時間も増えるこれからは，ワイルドで楽しい「実証旅行」を益々楽しんでください。

（河内山先生）

久保先生，長い間ご苦労様でした。先生とは関心事が近しいこともあり，研究内容や関連書籍についてよく議論をさせていただきました。また，ご自宅も近いことから，地元のスーパーや温泉，カフェなどでお会いすることも多々あったかと存じます。先生はご退職後も学術書を紐解き，「あーでもない，こーでもない」と白紙と向き合い続けるものと推察いたしておりますが，その際には，また是非お声がけいただき，近場のカフェにてご指導をいただければ幸いです。今後の益々のご健勝とご多幸を心より祈念いたしております。

末筆になりますが，長きにわたる教員生活を終えて，再出発する久保先生ですが，おそらくこれまで通り，八王子のカフェなどで数式を紙に書いてうーん，うーんと唸りながら，研究を続けられていくと思います。大学でお会いする機会はあまりなくなるかもしれませんが，これからも

学会・春の散策等でご指導いただければ幸いです。

まだ残暑の残る 2020 年 9 月

亜細亜大学経営学部　准教授　鈴木智大